

火	戰	學	化	器	兵	小	大
九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)	九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)	九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)	九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)	九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)	九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)	九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)	九式 補遺(個人裝備) 九式 補遺(個人裝備)
八	三	二	一	二	三	四	五
六	〇	〇	〇	四	二	一	二
(2)	(3)	(2)	(1)	(3)	(4)	(1)	(1)

昭和十九年三月二十日備前隊一部隊

化學戰資材及被服裝備ニ関スル事項

編成時ニ於テ個人裝備トシテ昭和十九年三月二十日備前隊一部隊

ヨリ左記ノ單ニ及領ス

略	冬衣袴	夏衣袴	冬襦袢袴下	雨外套	夏襦袢袴下	背	化學戰資材トシテ同日及領ス
三〇六	三〇三	三〇六	六九二	二四六	六九二	三四六	化學戰資材トシテ同日及領ス
雜	水筒	携帶天幕	飯盒	作業衣	卷脚絆	地下足袋	化學戰資材トシテ同日及領ス
三〇三	三〇三	三〇三	三四三	一〇八	三四七	三六七	化學戰資材トシテ同日及領ス
毛(綿卷)布	帽重布	認識票	被服手入具	全糸卷	防毒面甲		化學戰資材トシテ同日及領ス
五〇〇	四一八	四一八	三四三	三四三	三四七	三四七	化學戰資材トシテ同日及領ス

戰用縫製器具 二組 全防毒器具 一九組

戰用縫製器具 二組 戰用裝束器具 一組

部隊裝備特種被服トシテ四月八日釜山陸軍被服本廠出張所ヨリ左記品皮領ス

熱地用天幕	四個	防暑終衣袴	四〇〇	防暑帽	八〇
防蚊覆面	四〇	防蚊手袋	四〇		

部隊裝備トシテ同日入陸軍被服本廠釜山出張所ヨリ左記品目ヲ皮領ス

蚊帳	八個	夏衣袴	四〇個	腹卷	四〇
飯骨餅	四〇個	消耗品若干			

右、如ク化四号靴改良材並ニ部隊裝備備付及裝備ト皮領セシモノ一般被服ノ程度ノ非常ニ悪ク又答付靴上靴等々モ地下足袋ヲ代用使用セシ状況ナリ故ニ地下足袋ハ甚早廢品程度ノモノヲ見及ケル極トナリ其他被服消耗品特ニ靴下石鹼ハナニモ少ク又被服補修材料等、補給ヲ望ム

糧秣

第五十飛行場大隊編成完結受領ノ分トシテ第八十六飛行場大隊ヨリ四月一日受領左記ノ如シ

左記

品名	單位	數量	梱數	摘
精米	石	八四〇〇〇	一四	但シ本數量ハ第五十飛行場大隊編成俾テ定員四八名令戰用奉給糧秣トシテ(三分)受領ノ分
精麥	石	二六四〇〇	七	
精詰	石	二〇一六〇	一四	
正油	石	四五〇〇〇	三	

要

品名	單位	數量	梱數	摘
乾パン	石	一七、〇六〇	六七	但シ右ハ數量ハ輸送用四日分(五)理在人員三六七名切上梱數數量

要

部隊裝備 并種一被服トシテ四月八日迄全額納付被服四部
 所ヨリ左記品及領ス

熱地用衣布 四箇 防暑終衣袴 四〇〇 防暑 筒 八〇

靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇

靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇

靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇

靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇

靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇
 靴 八 防暑 筒 八〇

靴

携帶糧秣 (第五十飛行場大隊編成三伴ノ分)

尾 目 量 梱 数 桶 要

精 米 四二〇、〇〇〇 七

乾 米 三八八、四二〇 一九

携帶缶詰 一三三、〇〇〇 一一

携帶食塩 一五、〇〇〇 一

但し四月一日第八十六飛行場大隊ヲ携帶糧秣トシテ受領ス

衛生	品名	目數	量	品名	目數	量
衛生	隊醫板一三號	貳組	瓦斯治療囊甲			貳具
衛生	担架	貳具	"			參具
衛生	軍醫携帶囊	貳具	"			六具
衛生	醫藥囊	貳具	衛生濾水器乙			貳組
衛生	繃帶囊	六具	三角巾			九口枚
衛生	航空救急囊	貳具	吳氏副木			三六枚
衛生	自動呼吸器	壹具	繃帶包			三六七箇
衛生	隊瓦斯醫板	貳具	除毒包			三六七箇
衛生	一特記事項ナシ					
衛生	考					

陣中日誌用紙

四月一日 一部隊編成完結時受領之裝備用衛生材料左ノ如シ

衛生	品名	目數	量	品名	目數	量
衛生	隊醫板一三號	貳組	瓦斯治療囊甲			貳具
衛生	担架	貳具	"			參具
衛生	軍醫携帶囊	貳具	"			六具
衛生	醫藥囊	貳具	衛生濾水器乙			貳組
衛生	繃帶囊	六具	三角巾			九口枚
衛生	航空救急囊	貳具	吳氏副木			三六枚
衛生	自動呼吸器	壹具	繃帶包			三六七箇
衛生	隊瓦斯醫板	貳具	除毒包			三六七箇
衛生	一特記事項ナシ					
衛生	考					

訓示

茲ニ第五十飛行場大隊ノ編成完結セラレ眞三郎
之シキヨ以テ初代隊長トシテ當部隊統率ノ重任
ヲ拜ス 誠ニ無上ノ光榮ニシテ輩懼感激ニ堪ヘ
サル所ナリ

今ヤ大東亜戦争ノ決戦最高調ノ段階ニ突入シ敵
ノ必死ノ反攻ハ戦局ヲ愈々熾烈ナラシメ殊ニ航

空作戦ハ曰ヨ逐ヒテ激化シアリ。而シテ南方及
印緬國境方面戰場ニ於ケル赫ニタル戦果ハ皇國
不敗の勝ノ信念ヲ鞏固ナラシムト雖モ時局ハ一
日ノ偷安モ許サス
聖詔ヲ奉戴シ飽ク迄勝ヲ拔ク敢闘精神ヲ要スル
ヲ論ヲ俾タス。此ノ秋ニ方リ部隊ハ航空決戦ニ
参加スルノ重大任務ヲ負ヒテ誕生セリ部隊ノ任務

飛行戦隊ノ爲飛行場ノ敷設資材ノ保管及補給
飛行場ノ整備飛行場内ノ通信休宿給養衛生等ノ
地上勤務ヲ實施スルモノニテ諸子克ク決戦下
任務ノ重大性ヲ深ク認識シ之ヲ完遂ニ遺憾ナカ
ランニトヲ期スヘシ
惟ウニ未來永劫ニ續クヘキ部隊歴史ノ創設ニ當
ル我々ハ無限ノ光榮ニ感激スルト共ニ責務ノ重

且大ナルヲ銘心ニサレ
此ノ責務完遂ノ爲ニハ何等特異ノ工夫ヲ必要ト
セス只管勅諭ノ聖旨ヲ遵奉シテ之ヲ實行ニ移スト
共ニ典令ニ示ス處ヲ認真ニ實現シ各自其ノ職域
ニ應ジテ全能ヲ盡セハ足ル本職ノ統率ノ指針モ
昭トシテ明カナリ
然リト雖モ部隊編成ノ特色ト部隊ノ特性ニ鑑ミ

本職ノ特ニ要望スル事項ヲ述ワレハ右ノ如シ

一 團結ニ致

部隊編成人員ハ各種部隊ヨリ集合シ而モ各々其
ノ任務ヲ異ニスト雖モ本職ノ意圖方針ノ透徹ハ
モトヨリ禮道信義等ニ於テ互ニ信シ相親和シ明
瞭ナル部隊ノ團結ヲ完成スルニ遺憾ナカラシムヘシ
ニ軍紀ノ嚴正

軍紀ハ軍隊ノ命脈ニシテ又軍紀ハ實ニ戦力ナリ

軍紀嚴正ナクシテ鞏固ナル團結ナク完全ナル任
務ノ遂行モナシ而シテ軍紀森嚴ナル軍隊ハ如何
ナル任務ヲモ定遂ス速カニ森嚴ナル軍紀ヲ確立
シ其ノ任務ニ邁進スルヲ要ス

三至誠實行

軍人ノ奉公ハ口舌ヤ書物ニ非ラス一ニ熱ト誠ヲ

傾注セル實行ニアリ特ニ今般行ハントスル諸氏
ノ業務ハ礎行戦隊ノ女房役ニシテ縁ノ下ノ力持
タリ然レ共此ノ業務ヲヤ航空部隊活躍ノ基礎
ナリ宣シク此ノコトヲ認識シ滅私奉公没我協力
熱誠以テ職務ヲ實行シ任務ノ完遂ニ努カスルヲ
要ス

之ヲ要スルニ今日茲ニ部隊創設セラレタリト雖

モ部隊ノ眞價ヲ發揮セシガ爲ニハ今日以後ニ俟
ツモノ寔ニ多シ諸子既ニ前部隊ニ於テ練磨ノ功
ヲ積ミ所屬ヲ異ニストモ敢テ操守ヲ異ニスルモ
ノナリ又敢テ舊慣ニ擬ハルコトナク克ク本職
ノ意圖ヲ體シ各ニ其ノ本分ニ邁進シ部隊創設ノ
光榮ヲ完ウシ以テ皇恩ニ答ヘ奉ランコトヲ期ス
ヘシ

右訓示ス

昭和十九年三月三十一日

第五十飛行場大隊長 田村眞三郎

四月二日

本場人員

將校

八名

准

下

兵

九名

晴

山堡

行

一轉進準備迄轉進準備完了ス

一作為命令

ハ輸送命令別紙如シ



一大隊ハ四月三日(第一次)四月四日(第二次)輸送ヲ次テ

〇〇地ニ向ヒ前進セントス

二本部各中隊ハ別紙其一其ノニニ基キ出發準備迄ニ出發スベシ

三輸送勤務員左ノ如ク命ス

左

第一次 器材塔載掛

長

中澤少尉

同少尉

...

羽野少尉

吉野曹長

土井軍曹

人員塔載掛長 佐藤少尉

附 片田准尉

當舍准尉

佐藤曹長

第二次 器材塔載掛長 加藤少尉

附 宮治曹長

男谷軍曹

人員塔載掛長 郷司准尉

附 遠藤曹長

佐藤伍長

日命

一、明三日二、〇〇ヨリ出陣式ヲ行フ

依ツテ各隊ハ岩崎中尉ノ指揮ヲ次テ一、〇〇〇
道ニ飛行場ニ面シ戰鬥規範(案)第一其ノ一ノ
隊刑ニ准合シアルベシ

服装ハ軍装トシ略授佩用トス

ニ家族ハ或ルベク速カニ本籍地ニ歸還セシムヘシ

出場人員 將校一八名 准下技 五三 兵五七

四月三日
曇(雪)
青山堡
行 勤



一、〇九、〇ヨリ出陣式ヲ實施ス
ニ、作命第六號ニ依ル貨車積載 茲ニ去發 准準備ヲ
實施ス

訓 示 第八〇部隊長第五十飛行場大隊將兵ニ與ル

訓示左ノ如シ

左

第五十飛行場大隊將吳ニ告グ諸士ハ選ハレテ新ニ大隊ヲ編成スルト共ニ直ニ大命ニ依リ新任務ヲ南西ノ地ニ承ケ勇躍出發セントス本懐之ニ如クモノナカルベシ

今ヤ敵ノ中南太平洋方面ヨリスル基地推進ノ野胡王愈々熾烈トナリ神聖ナル皇國國土ノ守護益々固キヲ要スルノ秋諸士ニ新ニ此ノ重任ニ就ク其ノ光榮ヤ高ク其ノ責務ヤ洵ニ重シ

隊長以下宜シク克ク其ノ重責ト光榮トヲ銘肝シ戮力協心速ニ隊長核心トスル鐵石ノ團結ヲ達成シ愈々軍紀ヲ振作シ以テ其ノ重任ヲ完遂センコトヲ期スベシ

本職ハ將校以下益々自重自愛シ切ニ武

陣中日誌用紙

暹ノ陸昌ナランコトヲ計ル

昭和十九年四月三日

第八〇〇部隊隊長

四月四日

去場人員將校 八 往下坂(倉)兵 五 兵 九 文

曇(雪)

先發人員將校 一 往下 三 兵 三

青山堡上

第一次人員將校 二 往下坂 五 兵 一 七

本隊行動

一〇・一三。青山堡軍用ホームヨリ軍用列車ニ乗車

出發。勸利駅通過。向ヒ前進ス

ニ主力軍用列車ニ備付行動左ノ如シ

左

四月四日〇・三。青山堡發 一七〇。牡丹江駅

四月五日 著。九。獨洞駅

滿洲國ノ境通過朝鮮ニ入ル 發 一四・一五 會寧

著 九・九 羅南

四月五日 國境通過

命令 輸送命令 左ノ如シ

一 余ハ。船舶司令部ニ連絡シタメ會寧ヨリ
 交通連列車ニヨリ。向ヒ先行ス中澤少尉
 佐藤少尉。片田准尉 隨行スベシ
 二 四月五日ニ。以降輸送業務ハ安田中尉
 兼テ指揮スベシトス
 三 濱田主計中尉。下士官以下四名ヲ指揮シ備
 中興銀行ニ於テ資金切替ヲ實施シ
 業務終了後交通列車ニヨリ成ルベク速カニ
 本隊ニ追及スベシ

四月六日 著 一三二五 成興 四月七日 著 一三二五 金山 發 一三四五 或興 四月六日 著 一三二五 城津 發 一三四五 或興 四月七日 著 一三二五 京城 發 一三四五 或興

命令 度領を命令 別紙 如シ

訓示

當飛行場大隊ノ新編成リテ茲ニ四月今日又大命
 ニ依リ其ノ全カヲ以テ南西諸島方面ニ出勤ス
 ルハ編成初頭ヨリ大隊歴史ニ一大光彩ヲ樹立
 シテ之ヲ將來ニ殘サントスルモノニシテ光榮
 之ニ過グルモノナク誠ニ欣快ニ堪ヘザル處ナ
 リ
 惟テ南方戰局ハ愈々苛烈ニシテ敵殊ニ敵潛
 襲ハ我ガ南西諸島方面ニ迫必死ノ反攻ニ難

ク現出蠢動シ 敵機亦我が本土空襲ニ虎視眈々タル有様ナリ 此ノ真直中ニ突入シ敵機撃滅敵潛爆沈ノ航空基地ヲ守ル任務ハ誠ニ重且大ニシテ大隊戦力發揮ハ正ニ此ノ秋ヨリ他ナシ 故ニ以下主要事項ニ関シ特ニ要望シテ任務完遂ノ爲ノ方途ヲ示シメントス

一 不惑ナル軍紀ニ就テ 環境急變セル戰場ニ於テハ動モスレバ「命」的ノ戰場ナリトノ言ニ藉口シ不識ノ間

軍紀弛緩ノ結果ヲ招来スルコト多キヲ以テ 諸士宜シク不惑ナル軍紀ガ戦捷ノ根基ナルヲ思ヒ特ニ内務履行ヲ忽諸ニ附スルコトナク時ト所ト論ゼズ之ガ振作ヲ圖リ以テ飛行場大隊本領發揮ニ遺憾ナキヲ期スベシ

二 任務必達ニ就テ 飛行場大隊ノ任務ヲ達成センガ爲ニハ常ニ決戦意識ヲ昂揚シ眞摯旺盛ナル氣魄ヲ堅持シ如何ナル苦難ニ遭遇スルモ之ヲ打テ勝ツ敵闘精神ト倒レテ後尚止マザル強固ナル意志ト

一、以テ任務ハ必ズ又達成スルノ覺悟ヲ堅持スベシ

三、他部隊協力ニ就テ
協力部隊ノ活動力ヲ維持増進センガ爲ニハ
旺盛ナル犧牲的精神ヲ發露シ以テ第一義ト
トナス
常ニ任務ヲ基調トシテ滅私奉公獻身的努力
ヲ傾注シ萬遺憾ナキヲ期スベシ

四、衛生ニ就テ

酷熱瘴癘遠ク滿洲ノ比ニ非ズ
健康ハ志氣ノ源泉ニシテ戰力發揮ノ爲ノ重
要條件ナリ深ク思フ此ニ致シ常ニ旺盛ナル
體力ヲ保持スルニ努ムベシ

五、防諜ニ就テ

防諜ニ就テハ既ニ印刷交付シタル注意事項
ヲ嚴守實行シ今次移動ノ特異性ニ鑑ミ嚴ニ
注意スベシ

之ヲ要スルニ以上述べシ處ハ時日ヲ經過スル

ニ從ツテ益々要求ノ度ヲ強クスルモノナルヲ
以テ將校以下常ニ反省シテ初一年ノ貫徹ニ努
メ以テ既ニ要望セル大隊歴史連鎖ノ一環タル
ノ職分ヲ完遂スル爲渾身ノ努力ヲ傾倒シ以テ
大隊ノ名譽ヲ高揚セシムトヲ期スバシ

昭和十九年四月三日

第五十飛行場大隊長 田村真三郎

陣中日誌用紙

第三次行動 命

第二次輸送指揮官命令

- 一 第二次輸送指揮官岩崎中尉が率_レ
- 二 器材積載係加藤少尉ハ明日一五〇〇。三
リノ地ニ於テ器材積載ヲ開始シ一五〇〇迄ニ
完了スベシ細部ハ現地ニ於テ別ニ示ス
- 三 人員搭載係郷司准尉ハ明日一五三〇迄ニ
〇地ニ於テ人員搭載ヲ完了スベシ細部ニ
関シテハ現地ニ於テ別ニ示ス
- 四 松本見習士官ハ警戒隊長トナリ明日一五五〇
迄ノ地附近ニ長次下五名ヲ差出シ積載警
戒ニ任スベシ但シ其ノ後ノ警戒ハ別ニ示ス
- 五 給養係係ニ遠藤曹長任スベシ
- 但シ出發時ニ食分携行セシムベシ
- 六 輸送間左ノ通部一家日直將校一各車毎

二同下士官一ヲ設ク
左記

四日

五日

松本見習少尉
加藤少尉
郷司准尉

六日
（爾後釋返シ服務スモトス）
向日直下士官各車先仕者指揮名スモトス

行動
青少堡（勃利）發 四月四日七、三〇、一
（國境通過）四月六日
四月八日
金山著一九三〇
二第ニ次山岩崎中尉指揮シ四月八日金山
到着後、王力ト行動ス共ニ
衛生一輸送間幹部、通切之指導係、患者一名モナシ

陣中日誌用紙

其ノ一

区	分	先	發	本	次		計	人	員	計	器	材
					一							
					發	次						
計	後	發	二	發	次	計	計	計	計	計	計	計
計	後	發	二	發	次	計	計	計	計	計	計	計
計	後	發	二	發	次	計	計	計	計	計	計	計

三、七、七、名

輸送命令

一 大隊ハ四月四日主力後發ニ區分シ。時〇分
 青山堡出發。地ニ向ヒ前進。ロートス
 二 主力ハ車輛器材ノ搭載ハ一六〇〇。道ニ人員
 ノ乘車ハ二〇〇。道ニ完了スヘシ
 人員器材ノ車輛ノ配當ハ第五〇。飛大作命
 第六號ニ依ルニシ
 三 輸送間部隊日直將校一各車毎ニ同下士
 官上等兵ヲ置ク。服務ニ関シテハ軍隊由務
 令週番勤務ヲ準用ス
 部隊日直將校

四日 大久保少尉
 五日 羽野少尉
 六日 小坂見習士官

考 備	次二第	次一第	分	区	発	其ノ二
	4月3日15時	4月3日10時	配	青	青	
	4月4日18時30分	4月3日10時	配	青	青	
	4月4日5時30分	4月3日17時47分	配	青	青	
	(4月4日17時30分)	(4月3日5時30分)				

三西車輛
 十三車輛

次二第
 次一第

配車位置

利

一 第一次乘車積載完了。三日十四時三〇分
 二 第二次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 三 第三次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 四 第四次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 五 第五次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 六 第六次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 七 第七次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 八 第八次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 九 第九次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十 第十次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十一 第十一次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十二 第十二次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十三 第十三次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十四 第十四次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十五 第十五次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十六 第十六次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十七 第十七次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十八 第十八次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 十九 第十九次乘車積載完了。三月十五日三〇分
 二十 第二十次乘車積載完了。三月十五日三〇分

七日 清水見習士官
 八日 柴田少尉
 九日 平野少尉
 四、敬告備中隊長ハ輸送間長次下五名ノ敬告
 戒兵ヲ差出し日直將校ノ指揮ヲ受ケンベシ
 五、連絡ハ車長直接實施スベシ
 六、輸送間特ニ指平スル場合ノ外將校次下ノ
 乗下車ヲ禁ズ扉ハ閉鎖シ置キ對
 空敬告戒ニ関シテハ嚴ニ注意スベシ
 七、輸送間ノ給養ハ兵站給養ニ依ルモ明四日
 朝食晝食暮食ヲ携行スベシ
 八、危害除防及防諜ニ関シテハ覺ニ指示セ
 ル事項ヲ徹底セシムベシ
 九、後發ハ岩崎中尉ノ指揮ニ依リ〇〇時着

山保土出發。地ニ向ヒ前進スベシ
 〇、三、二、〇、〇。迄部隊本部ニ在リ爾後主力第
 一車輛ニ在リ

四月五日

作戰用燃料(自動車)左ノ如ク受領ス
 補給所 鷄寧第第九三一部隊

品目	單位	受領數	備	要
揮發油	主	八〇本	二〇〇五入 ドラム缶	
モビール	〃	三三本	五四五入	
キヤール油	〃	一〇本	一八五入	
グリース	斗	六本		
制動油	主	九本	一ガロン	

七日

清水見習士官

八日

柴田少尉

無事

山

一日カマノ平野少尉

アノ

輸送間長次下五名ノ警

キ

指揮ヲ受ケル

キ

實施スヘシ

キ

將校次下

キ

對

キ

注意スベシ

キ

依ルモ明四日

キ

指示セ

キ

一車

キ

州

キ

州

陣中日誌用紙

陸

陸

四日

四月八日 本場人員將校八往不抜五三 兵 九七

曇

釜山

主力行動 一主力〇〇〇釜山中學校ニ於テ宿営ヲ

實施セリ



二本部各中隊ハ〇八三ヨリ第三堆頭ニ於

テ主力ハ器材ノ卸下及七八九輸送船

ニ塔載ヲ實施シ一六〇〇完了ス

三宿営間ノ日課時限左ノ如シ

起 床(日朝莫呼)

朝食

衛兵交代

晝食

〇七〇〇

〇八〇〇

〇九〇〇

一一〇〇

會報
夕食
日夕英呼
消燈

一三〇〇
一七〇〇
一九〇〇
二〇〇〇

第五次行動
第二次岩崎中尉以下二十六名軍用列車に依り追及後發河原主計少尉以下四名交り通列車に依り追及及釜山著一九三〇大隊ハ本日ヲ以テ青山堡——釜山間ノ陸路に依ル人員器材ノ輸送ハ事故發生スル事ナリ集結了了ス
衛生
生一先發第一次(主力)第二次、後發人員何モ士氣旺盛ニシテ一名ノ發病者ナシ無事集結了了ス
作命一作為セル命令別紙ノ如シ

受領セル命令

- 一 我ガ進軍ニ敵潜水艦出沒ス
- 二 左証部隊ハ明日及九日兩日ニ亘リ來船セトス
- 三 櫻部隊(第十九航空地正司令部)
- 四 松部隊(第二五飛行場大隊)
- 五 竹部隊(第五〇飛行場大隊)
- 六 梅部隊(第三飛行場中隊)
- 七 桐部隊(要塞建築勤務隊)
- 八 以下輸送間ニシテ、如ク部隊名ヲ略稱ス
- 九 桐部隊ハ門司ヨリ來船スルモノトス
- 十 三艇部隊ハ對潛警戒ヲ嚴テラレハル請準備ヲ促進ス